社会調査の基礎

【担当講師】

吉田渉、貫井政文

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会調査に関する基本的事項のポイントを、インタビュー調査とアンケート調査を中心に効率よく学習する。修士論文作成や職務の中で社会調査を実施する際に、問題関心や目的に沿った的確な方法で適切に調査を実施し、結果をまとめるための基本的な考え方を習得する。

【到達目標】

社会調査に関する基本的事項(社会調査の目的、各種調査方法等の要点)を身につけること。特に、修士論文でインタビュー調査やアンケート調査を的確に実施できることを目指す。

【受講対象】

法政大学大学院の修士課程在籍者で、自ら社会調査を企画・実施する計画がある学生

【履修上の注意】

講義は教室での対面講義とzoomによるオンライン講義の併用とする。

8/5(土)の講義にはノートPCを持参すること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし

【授業日程】

1日目:8/3(木) ①18:35~20:15、②20:20~22:00 (zoom)

2日目:8/5(土) 313:10~14:50、415:00~16:40、516:50~18:30 (対面)

3日目:8/7(月) ⑥18:35~20:15、⑦20:20~22:00 (zoom)

【授業計画】

※授業内容は受講人数等によって調整することがある。

授業 回数	テーマ	内容
1	社会調査について	社会調査とは何か、研究と社会調査、社会調査の対象と方法等
	質的調査(1)質的調 査の種類と考え方	質的調査の基本的な考え方について学習する。質的調査の特徴やその種類について解説するとともに、調査倫理についても確認する。
	質的調査(2)インタ ビュー調査	インタビュー調査の種類やプロセス等の具体的方法について学習する。また、 インタビュー調査時の注意点についても解説する。
	質的調査の課題提示	8/5の③~⑤で実施するインタビュー調査の質問内容の作成等、課題の提示
2	量的調査(1)調査の 手順	量的調査について調査全体の手順と、それぞれの段階で考慮すべき事項等について学習する。
	量的調査(2)調査票 の作成	調査票の構成、質問項目の設定、 質問文の作成の際の留意点等について学習する。
	量的調査(3)調査の 実施・回収・集計	Googleフォームを使用した調査の実施・回収・集計について学習する。
	量的調査の課題提示	8/5の③~⑤で実施するアンケート調査の質問内容の作成等、課題の提示 (アンケート調査はGoogleフォームを使用する)

3	インタビュー調査と アンケート調査(1)	インタビュー調査とアンケート調査の実施
4	インタビュー調査と アンケート調査(2)	インタビュー調査とアンケート調査の実施
⑤	インタビュー調査と アンケート調査(3)	まとめ
6	受講者による発表 (1)	自分の修士論文で利用する社会調査等について発表、Q&A
7	受講者による発表(2)	自分の修士論文で利用する社会調査等について発表、Q&A

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

8/5(土) に実際の調査を実施するので、それまでにインタビュー調査項目とアンケート調査項目を考えておくこと。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

北川由紀彦・山口恵子『社会調査の基礎(放送大学教材)』放送大学教育振興会、2019年 佐藤郁哉『社会調査の考え方「上・下]』東京大学出版会、2015年

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000年

【講師プロフィール】

吉田 渉

2012年に法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科で経営管理修士、2021年に早稲田大学大学院社会科学研究科で博士(社会科学)を取得。専門社会調査士。時事通信社(世論調査や市場調査を10年以上担当)等を経て、現在は一般社団社団法人地域資源研究所代表理事。法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科特任講師、法政大学地域研究センター客員研究員、横浜商科大学非常勤講師も務める。

貫井政文

2010年に法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科で経営管理修士、2019年に法政大学大学院公共政策研究科で公共政策学修士を取得。専門社会調査士。2010年から中小企業診断士としてコンサルティングおよび調査・研究に従事、現在は一般社団社団法人地域資源研究所代表理事。法政大学地域研究センター客員研究員、日本工業大学大学院技術経営研究科客員教授も務める。

【その他】

不明点等の問い合わせ先

hurin-research@googlegroups.com